

1 ガイドラインの目的と位置付け

初めて伊勢路を歩く旅人が、外国人観光客も含め、安全かつスムーズに伊勢路を踏破できる案内をめざします。

2 現状及び課題

▶案内看板の整備状況


- 伊勢路沿道では、世界遺産登録前からさまざまな団体が案内看板を整備してきました。

▶案内看板の整備に関する課題

- 史跡、施設等の名称表記、看板のデザインが不統一
- 日本語表記しかない
- 峠と峠をつなぐ街中の案内が少ない 等

3 対象範囲

伊勢路を歩く旅人が現地で目にするもので、安全かつスムーズに伊勢路を踏破するための情報提供機能を持つもののうち、今後、設置・更新する案内看板を対象とします。

類型	道標	記名看板	総合案内板	解説板
機能	目的地への誘導、伊勢路ルートの確認	史跡、施設等の名称や位置を示すもの	地域の全体像の把握と現在地の確認	史跡や自然景観等の解説
案内看板のイメージ				

4 ルール化する項目と内容

文字表記	日本語・英語それぞれにおいて、視認性の高い書体を使用します。必要な視距離に応じ、見やすい文字の大きさを確保します。
色彩	文字・矢印は「白色」を、背景は「濃茶色」を基本とします。
表示する情報	初めて伊勢路を歩く旅人にも分かりやすいように表示する情報の記載基準を統一します。
英語表記	多言語表記は、日本語及び英語（ローマ字）を基本とします。

【表示する情報】

- 記載基準を統一
- 史跡、施設等の名称・矢印
 - 熊野古道の名称
 - 設置者と設置年月 等

5 運用方針

- 統一的なルールが「地域の約束事」として運用され、定着するように、チェック機能を仕組み化します。
- 史跡等の名称表記が、地図、ガイドマップ等でも統一化されるように、関係者にガイドラインの活用を求めます。

【文字表記】

- 視認性の高い書体を使用
- 英語の文字の高さは、日本語の3/4を確保

【英語表記】

日本語と英語の併記を基本

【色彩】

文字・矢印は白色
背景は濃茶色



**熊野古道伊勢路
案内等表記ガイドライン
(案)**

令和 年 月

熊野古道協働会議

目 次

1 ガイドラインの目的と位置付け

2 現状及び課題

- (1) 案内看板の整備状況
- (2) 案内看板の整備に関する課題

3 対象範囲

4 ルール化する項目と内容

- (1) 文字表記
- (2) 色彩
- (3) 表示する情報
- (4) 英語表記

5 運用方針

- (1) マネジメントの体制
- (2) 関係者に対する周知・啓発
- (3) 周辺観光地との案内の共通化
- (4) 維持管理と更新の検討
- (5) 定期的な見直し

1 ガイドラインの目的と位置付け

初めて伊勢路を歩く旅人が、外国人観光客も含め、安全かつスムーズに伊勢路を踏破できる案内をめざします。

伊勢路の歩く旅人に、伊勢から熊野まで 170 kmにおよぶ道のを安全に楽しんでもらうためには、案内看板をはじめとする受入環境の整備・充実は欠かせません。

特に、案内看板は、歩く旅人が現地で目にし、最も頼りにする情報のひとつであることから、外国人観光客も含め、誰にとっても分かりやすいことが重要です。

伊勢路の案内看板は、世界遺産登録前からこれまでの間、国・県・沿道市町・保全団体等によって整備されてきましたが、「史跡、施設等の名称表記、看板のデザインが不統一」、「日本語表記しかない」、「峠と峠をつなぐ街中の案内が少ない」といった課題がみられるところです。

これらの課題を解消するためには、伊勢路の関係者が、伊勢路沿道の案内看板に関する統一的なルールを共有して、初めての旅でも、安全かつスムーズに伊勢路を踏破できる案内をめざしていくことが必要です。

このため、熊野古道協働会議の合意のもとで、統一的なルールをガイドラインとして定めます。

なお、このガイドラインは、統一的なルールへの準拠を強制したり、既設の案内看板の速やかな更新・撤去等を求めたりするものではありません。

また、必要に応じて所要の見直しを行うこととします。

令和3年山岳遭難において、遭難者 3,075 人のうち、1,277 人（41.5%）は道迷いによるとのデータ（*1）をふまえると、案内看板の整備にあたっては、安全かつスムーズに伊勢路を踏破するための情報提供機能を確保することが重要です。

（*1）令和3年における山岳遭難の概況（警察庁調）

ターゲット

初めて伊勢路を歩く旅人
（外国人観光客も含みます）

めざす姿

安全かつスムーズに伊勢路を
踏破できる案内

統一的なルールをガイドラインとして定め、
伊勢路の活用に関わる関係者が共有

2 現状及び課題

(1) 案内看板の整備状況

伊勢路沿道では、世界遺産登録前から、国・県・沿道市町・保全団体等の多様な設置者によって案内看板が整備されてきました。

▶H16 以前 峠や街中の案内看板を整備

- ・H10 に東紀州地域活性化事業推進協議会（現（一社）東紀州地域振興公社）が「甦る神々のみち 熊野古道サイン整備計画」を策定
- ・H15 に県教育委員会が「熊野街道歴史のみち整備活用計画」を策定



▶H16～H17 世界遺産登録エリアの峠 100m道標の整備

- ・来訪者が歩く際の目印にするとともに、現在地を特定して緊急時に迅速に対応できるように危機管理の一環としてヒノキ製道標を設置
- ・H26 以降は、老朽化したものを順次更新



▶H16～ 世界遺産登録エリアの案内看板の整備

- ・市町による案内看板の整備（甦る神々のみち 熊野古道サイン整備計画）の規格による県補助事業）

▶H16～ 沿道市町や民間団体による独自デザインの案内看板の整備



木製道標

木製道標

陶器製目印
(建物壁に設置)

タイル製道標
(歩道脇の側溝に設置)

石柱道標

▶H21 伊勢神宮から熊野速玉大社までの4 km 道標の整備

- ・伊勢から熊野まで通して歩くための目印として、伊勢路 170km の道のりに 4km ごとにヒノキ製道標を設置



▶H29～ 道標へのローマ字表記プレートの追加・赤白目印の整備

- ・外国人観光客の受入環境の充実のため、既存道標に取り付けができるローマ字表記プレートを設置
- ・地域のおもてなしの一環として、既存の案内看板を補完するための統一的な目印として、「赤白目印」の設置を開始



▶R2～ 東紀州地域における道標整備と外国語表記の共通化

- ・道標（立て看板・路面シート）の更新・新設予定の市町において、「道標の表記内容」、「表記の書体」、「外国語の表記」、「道標の色」等の共通化を合意



外国語表記の共通化（ガイドライン・対訳表）



■東紀州地域 対訳対象固有名称一覧

No.	自治体	固有名称	カタコリー	対訳
1	01 紀北町	馬越峠	02 熊野古道	Magose-toge Pass
2	01 紀北町	一石・平方峠	01 熊野古道	Ikoku-toge Pass Hirakata-toge Pass
3	01 紀北町	ツツラト峠	01 熊野古道	Tsuzurato-toge Pass
4	01 紀北町	栗坂峠	01 熊野古道	Nisaka-toge Pass
5	01 紀北町	袖神峠	01 熊野古道	Hakami-toge Pass
6	01 紀北町	三浦峠	01 熊野古道	Miura-toge Pass
7	02 尾鷲市	八雲山越え	01 熊野古道	Yakuyama-goe
8	02 尾鷲市	馬越峠入り口	01 熊野古道	Magose-toge trailhead
9	02 尾鷲市	江戸の道	01 熊野古道	Edo-no-michi
10	02 尾鷲市	熊野古道 伊勢段	01 熊野古道	Kumano Kodo Iseji
11	02 尾鷲市	羽後峠	01 熊野古道	Hago-toge Pass
12	02 尾鷲市	三木峠	01 熊野古道	Miki-toge Pass
13	02 尾鷲市	湯島の道	01 熊野古道	Miyu-no-michi
14	02 尾鷲市	八雲山越え入り口	01 熊野古道	Yakuyama-goe trailhead
15	03 熊野市	伊勢段	01 熊野古道	Iseji
16	03 熊野市	熊野道	01 熊野古道	Kannon-michi
17	03 熊野市	通り峠	01 熊野古道	Tori-toge Pass
18	03 熊野市	二木峠	01 熊野古道	Nigishima-toge Pass

(2) 案内看板の整備に関する課題

案内看板の現状を調査した結果、次の課題を確認しました。

▷調査手法	県南部地域活性化局職員による実踏査調査 ルートは熊野古道伊勢路ナビ（熊野古道伊勢路図絵）を参照
▷調査時期	令和4年5月～7月、同年11月～令和5年1月（予定）
▷調査結果	<u>後日、関係市町等に内容確認を依頼</u>

▶史跡、施設等の名称表記が不統一（表記内容）



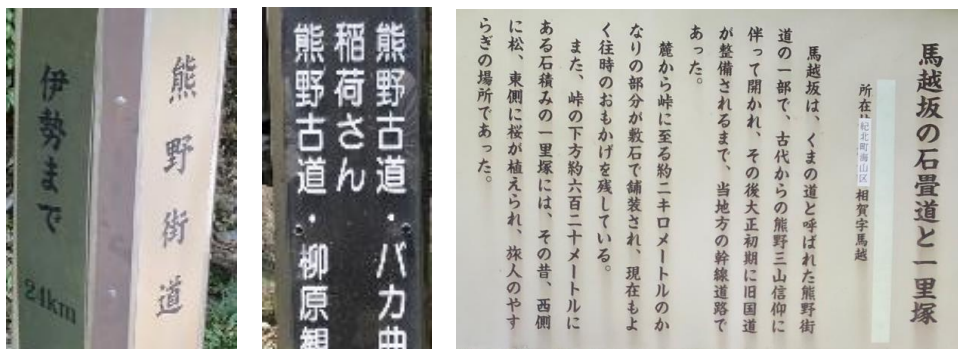
(日本語表記)

馬鹿曲がり、バカ曲り、バカ曲がり、馬鹿曲

(英語表記)

Onigajo , ONIGAJYO , Oni-ga-jo

▶英語表記がない（表記内容）



▶記載情報の基準が不統一（表記内容）

▶伊勢方面に向かう案内情報の不足（表記内容）

▶設置者によってデザインが大きく変わってしまう（デザイン）



▶ 峠と峠をつなぐ街中の案内が少ない、分岐点に設置されていない、設置位置が分かりにくい（設置場所）



▶ 看板が老朽化、損壊している（維持管理）











3 対象範囲

このガイドラインの対象とする案内看板は、伊勢路を歩く旅人が現地で目にするもので、安全かつスムーズに伊勢路を踏破するための情報提供機能を持つものうち、今後、設置・更新するものとします。

そのうえで、案内看板の類型ごとに、その機能をふまえて、ルール化する項目を定めます。



類型	道標	記名看板	総合案内板	解説板
機能	目的地への誘導、伊勢路ルートの確認	史跡、施設等の名称や位置を示すもの	地域の全体像の把握と現在地の確認	史跡や自然景観等の解説
主な設置主体	国、県、市町、保全団体	国、県、市町、施設管理者	市町	国、県、市町
ルール化する項目				
(1)文字表記	○	○	—	—
(2)色彩	○	○	—	—
(3)表示する情報	○	○	○	○
施設等の名称統一略語、数字表記	○	○	○	○
QRコード活用	○ (現在地を表示する地図)	○ (史跡等の解説)	○ (史跡等の解説)	○ (史跡等の解説)
表記に盛り込む情報	○	○	—	—
(4)英語表記	○	○	○	○
案内看板のイメージ	 	 	 	 

※津波、地震等の災害に関する避難場所等の案内については、防災標識ガイドブック（一般社団法人日本標識工業会）等により、日本全国の標準化が進められているため、このガイドラインでは対象にしません。

4 ルール化する項目と内容

現状の課題等をふまえ、このガイドラインにおいてルール化する項目と内容は、次のとおりとします。

(1) 文字表記	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語・英語それぞれにおいて、視認性の高い書体を使用します ・必要な視距離に応じて、見やすい文字の大きさを確保します
(2) 色彩	<ul style="list-style-type: none"> ・文字・矢印は「白色」を、背景は「濃茶色」を基本とします
(3) 表示する情報	<ul style="list-style-type: none"> ・初めて伊勢路を歩く旅人にも分かりやすいように表示する情報の記載基準を統一します
(4) 英語表記	<ul style="list-style-type: none"> ・多言語表記は、日本語及び英語（ローマ字）を基本とします



(1) 文字表記

① 書体

日本語・英語それぞれにおいて、視認性の高い書体を使用します。

▶日本語 丸ゴシック体

(例) HG 丸ゴシック M-PRO、源柔ゴシック、ヒラギノ丸ゴ Std

▶英語 サンセリフ体

(例) Arial、Helvetica、Verdana

② 文字の高さ

必要な視距離に応じて、見やすい文字の大きさを確保します。

▶視距離に応じた文字の高さの目安

英語を日本語と併記する場合、英語の文字の高さは、日本語の3/4を確保し、日本語と同程度に判読できるよう配慮します。

視距離	日本語の文字の高さ	英語の文字の高さ
30mの場合	120mm 以上	90mm以上
20mの場合	80mm 以上	60mm 以上
10mの場合	40mm 以上	30mm 以上
4～5 mの場合	20mm 以上	15mm 以上
1～2 mの場合	9mm以上	7mm 以上

▶文字の高さ

(日本語) 熊野古道伊勢路 

(英語) Kumano Kodo Iseji 

(2) 色彩

▶文字・矢印は「白色」を、背景は「濃茶色」を基本とします。

- ・多くの色を用いると繁雑になることから、色数は必要最小限とします。
- ・できる限り多くの方に情報が伝えられるように、カラーユニバーサルデザイン(*2)の考え方を取り入れるとともに、周辺の景観と調和する色彩とします。

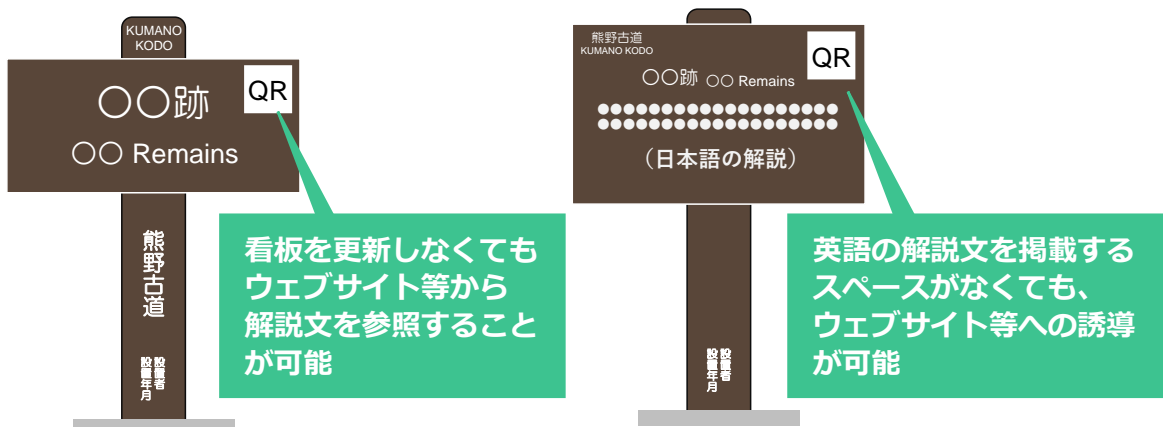
(*2) カラーユニバーサルデザイン推奨配色セットガイドブック(第2版)

(3) 表示する情報

すべての案内看板に共通する事項

＜統一表記、略語・数字表記、QRコードの活用＞

- ▶伊勢路沿道の史跡、施設等の名称については、日本語及び英語の統一表記を使用します。(統一表記は、ガイドライン資料として対訳表を作成予定)
- ▶案内看板の表示面の繁雑化を防ぐために、明確に理解される範囲内で省略できる部分は省略します。
三重県立熊野古道センター → 熊野古道センター
- ▶アルファベットによる名称が慣用化されている場合は、それを用います。
東海旅客鉄道株式会社 → JR 東海
- ▶数字の表記は原則として、算用数字を使用します。ただし、固有名詞として用いる場合はこの限りではありません。
- ▶案内看板の盤面の大きさ等の制約により、詳しい情報や多言語による掲載が困難な場合には、QRコードを活用し、ウェブサイトやアプリによる情報提供を検討します。



道標に関する事項 <表記に盛り込む情報>

▶道標の表記に盛り込む情報

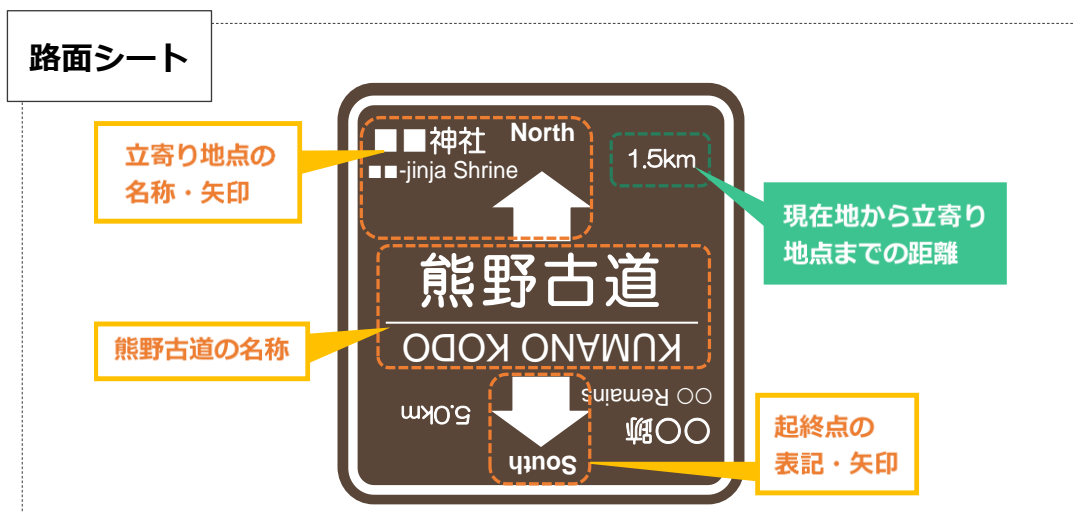
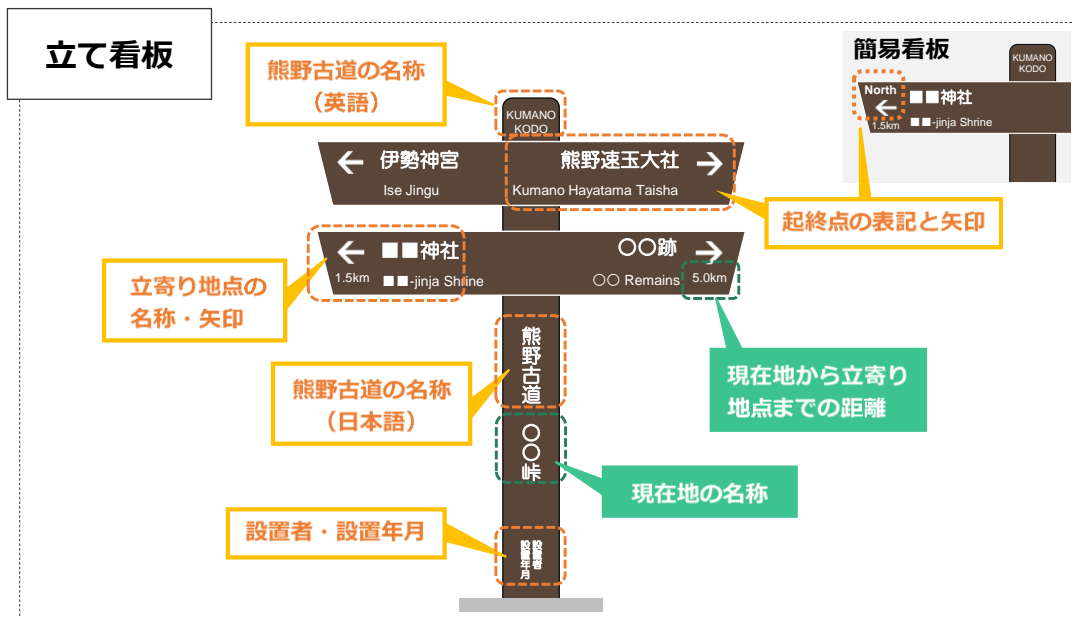
必須	必要に応じて記載
<ul style="list-style-type: none"> 立寄り地点（*3）の名称・矢印 起終点（*4）の表記と矢印 熊野古道（*5）の名称 設置者と設置年月（路面シートは除きます） 	<ul style="list-style-type: none"> スペースにあわせて「熊野古道」を「熊野古道伊勢路」に変更 現在地の名称 現在地から立寄り地点までの距離 そのほか目的に応じて記載

（*3）伊勢路を歩く旅人が経由する沿道の主な史跡、施設等とします。

（*4）起点は「伊勢神宮」とし、終点は「熊野速玉大社」または「熊野本宮大社」とすることを基本とします。

ただし、案内表示面の繁雑化を防ぐために、伊勢神宮方面の矢印に「North」、熊野速玉大社・熊野本宮大社方面の矢印に「South」の表記を添えることで、起終点の記載に代えられることとします。

（*5）ロゴとして使う場合は、すべて大文字で「KUMANO KODO」と表記します。



記名看板に関する事項 <表記に盛り込む情報>

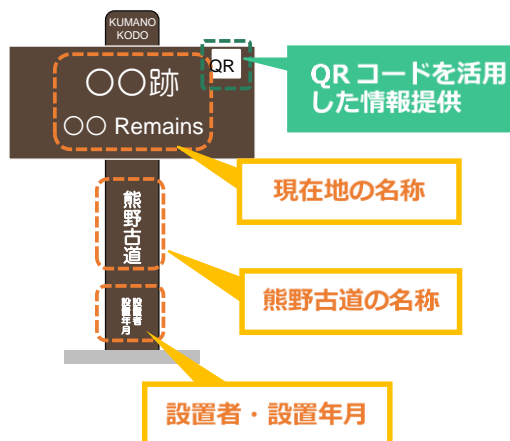
▶ 記名看板の表記に盛り込む情報

必須	必要に応じて記載
<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在地の名称 ・ 熊野古道の名称 ・ 設置者の名称、設置時期（路面シートは除きます） ・ 起終点の表記と矢印（熊野古道のルートを示す場合） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スペースにあわせて「熊野古道」を「熊野古道伊勢路」に変更 ・ QRコードを活用した情報提供（ウェブサイトやアプリがある場合） ・ 地点番号（峠内ルートの場合） ・ そのほか目的に応じて記載

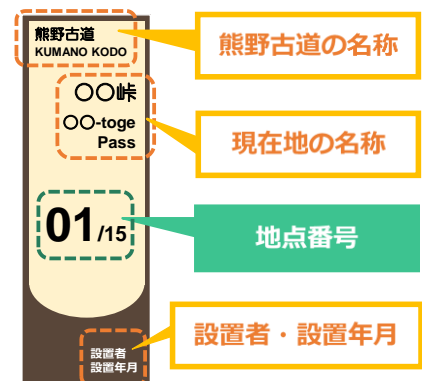
熊野古道のルートを示す立て看板・路面シート



史跡、施設を示す立て看板



峠上の地点番号を示す立て看板



(4) 英語表記

多言語表記については、日本語及び英語（ローマ字）を基本とします。

ただし、地域及び施設の特性の観点から、英語以外の多言語表記の必要性が高いと判断される場合、他の言語による表記を妨げるものではありません。

▶固有名詞の表記ルール

英語訳の元となる日本語をパターン分け（類型1～3）して、表記のルールを定めます。

なお、施設の管理者等が既に公式の英語表記を設定している場合には、当該施設の管理者による表記方法を優先します。

▷類型1 固有名詞（ローマ字）+普通名詞（英語）で表記

馬越公園 Magose Park
伊勢市駅 Iseshi Station (Iseshi Sta.)

▷類型2 固有名詞（ローマ字）+普通名詞（ローマ字）+普通名詞（英語）で表記

松本峠 Matsumoto-toge Pass
熊野川 Kumano-gawa River
天狗倉山 Mt. Tengurasan
飛鳥神社 Asuka-jinja Shrine
飛雪の滝 Hisetsu-no-taki Falls

峠・川・山・神社・滝等の普通名詞部分を含めた全体が不可分の固有
名詞として認識されている場合は、全体のローマ字つづりの前後に、
普通名詞部分を英語に直して表記します。

▷類型3 固有名詞（ローマ字のみ）で表記

熊野古道伊勢路 Kumano Kodo Iseji
紀伊山地 The Kii Mountain Range

ロゴとして使う場合は
すべて大文字
KUMANO KODO ISEJI

▶略語のルール

慣用化されている場合やスペース・視認性等の観点から適当と考えられる場合は、略語を用いることができます。

駅 Station → Sta.
河川 River → Riv.
山 Mountain → Mt.
高速道路 Expressway → Expwy.

▶伊勢路沿道の史跡、施設等の対訳は、統一表記を使用します。

統一表記の整理にあたっては、写真や説明文、ピクトグラムがなく、文字だけでしか表記できない場面で、史跡等の日本語の意味（由来やモチーフ）を伝える表記例もルール化します。

(例) 獅子岩 Shishiiwa (Lion Rock)、鬼ヶ城 Onigajo (Demon's Castle)

▶日本語のローマ字表記はヘボン式を用います。

日本語音					ヘボン式ローマ字つづり				
あ	い	う	え	お	a	i	u	e	o
か	き	く	け	こ	ka	ki	ku	ke	ko
さ	し	す	せ	そ	sa	shi	su	se	so
た	ち	つ	て	と	ta	chi	tsu	te	to
な	に	ぬ	ね	の	na	ni	nu	ne	no
は	ひ	ふ	へ	ほ	ha	hi	fu	he	ho
ま	み	む	め	も	ma	mi	mu	me	mo
や	ー	ゆ	ー	よ	ya	—	yu	—	yo
ら	り	る	れ	ろ	ra	ri	ru	re	ro
わ	ー	ー	ー	ー	wa	—	—	—	—
ん					n				
が	ぎ	ぐ	げ	ご	ga	gi	gu	ge	go
ざ	じ	ず	ぜ	ぞ	za	ji	zu	ze	zo
だ	ぢ	づ	で	ど	da	ji	zu	de	do
ば	び	ぶ	べ	ぼ	ba	bi	bu	be	bo
ぱ	ぴ	ぷ	ぺ	ぽ	pa	pi	pu	pe	po
きゃ		きゅ		きょ	kya		kyu		kyo
しゃ		しゅ		しょ	sha		shu		sho
ちゃ		ちゅ		ちょ	cha		chu		cho
にゃ		にゅ		にょ	nya		nyu		nyo
ひゃ		ひゅ		ひょ	hya		hyu		hyo
みゃ		みゅ		みょ	mya		myu		myo
りゃ		りゅ		りょ	rya		ryu		ryo
ぎゃ		ぎゅ		ぎょ	gya		gyu		gyo
じゃ		じゅ		じょ	ja		ju		jo
ぢゃ		ぢゅ		ぢょ	ja		ju		jo
びゃ		びゅ		びょ	bya		byu		byo
ぴゃ		ぴゅ		ぴょ	pya		pyu		pyo

備考1 長音 : 「ー」(長音符号)、「^」、「h」は基本的に用いません。

2 はねる音 : 「ン」は「n」で表しますが、「m」、「b」、「p」の前では「m」を用いることができます。

3 つまる音 : 次にくる最初の子音字を重ねて表しますが、次に「ch」が続く場合には「c」を重ねずに「t」を用います。

4 大文字 : 語頭は大文字で書きます。

5 ハイフン : はねる音を表す「n」と次にくる母音字又は「y」とを切り離す必要がある場合には、「n」の次に「-」(ハイフン)を入れます。
意味のかたまりや発音のしやすさ等の観点から、複数の名詞等で構成される固有名詞や「o」が重なる場合等は、その間に「-」(ハイフン)を入れることができます。

6 その他 : 特殊音の書き表し方は自由とします。

5 運用方針

(1) マネジメントの体制

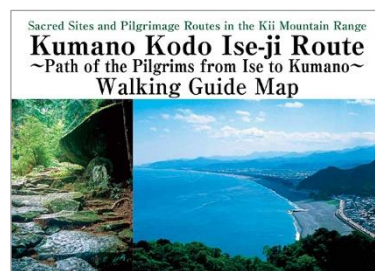
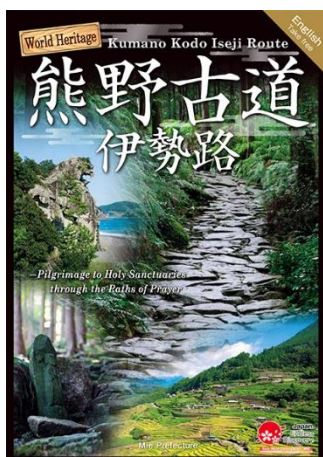
ガイドラインによる統一的なルールが「地域の約束事」として運用され定着するように、チェック機能を仕組み化します。

チェック機能の仕組み	市町 観光担当課	県 地域活性化局	県 東紀州振興課
情報収集 管内の案内看板について、設置・更新の情報を収集します。	◎	◎	—
チェック 案内看板がガイドラインに沿った仕様になっているかを3者が合同会議で確認し、必要に応じて助言します。	○	○	◎
共有 熊野古道協働会議の場を通して、毎年度の実施状況を共有します。	—	—	◎

(2) 関係者に対する周知・啓発

伊勢路沿道の観光振興を推進するために、熊野古道協働会議の参加者が協力して、伊勢路の活用に関わる関係者に対して、このガイドラインの内容を周知・啓発します。

特に、史跡、施設等の名称表記（日本語及び英語）は、伊勢路を歩く旅人が目にする機会が多い地図、ガイドマップ、パンフレット及びウェブサイト等においても統一化されるように、このガイドラインの積極的な活用を求めます。



(3) 周辺観光地との案内の共通化

熊野古道は、三重県・奈良県・和歌山県の三県にまたがる世界遺産です。

将来的には、熊野古道を歩く旅人が、県境・地域境を越えて安全かつスムーズに周遊できるように周辺地域との案内の共通化等の必要な調整に努めます。

(4) 維持管理と更新の検討

これまでに整備してきた、またこれから整備する案内看板の維持管理と更新は、伊勢路の「歩き旅」を安全かつスムーズに楽しんでもらうために必要不可欠です。

案内看板の設置者だけでなく地域全体で、維持管理と更新は、整備と同等あるいはそれ以上に重要な取組であるという認識を共有しておかなければなりません。

今後は、熊野古道協働会議・分科会における「持続可能な保全体制づくり」の状況もふまえて、案内看板の維持管理と更新の検討を深めていきます。

(5) 定期的な見直し

伊勢路を歩く旅人の動向やニーズは、時間の経過とともに変化するため、求められるニーズを的確にとらえ、必要に応じて、ガイドラインを見直します。

また、国や関係団体等から、このガイドラインに関連する指針等が示された場合には、それらと整合が図られるよう更新します。

(参考資料)

- ・観光活性化標識ガイドライン
(平成 17 年 6 月 国土交通省総合政策局)
- ・観光立国実現に向けた多言語対応の改善・強化のためのガイドライン
(平成 26 年 3 月 国土交通省観光庁)
- ・公共交通機関の旅客施設に関する移動等円滑化整備ガイドライン
(令和 4 年 3 月 国土交通省総合政策局バリアフリー政策課)
- ・甦る神々のみち 熊野古道サイン整備計画
(平成 10 年 3 月 東紀州地域活性化事業推進協議会)
- ・吉野熊野国立公園熊野地域管理計画書
(平成 12 年 4 月 近畿地区自然保護事務所)
- ・伊勢志摩国立公園管理計画書
(平成 21 年 12 月 中部地方環境事務所)
- ・伊勢市景観計画
(平成 21 年 12 月 伊勢市都市計画課)
- ・東紀州地域外国語表記ガイドライン (第 1 版)
(令和 4 年 3 月 一般社団法人東紀州地域振興公社)
- ・高野参詣道 看板整備方針
(令和 3 年 3 月 橋本・伊都広域観光協議会)
- ・カラーユニバーサルデザイン推奨配色セットガイドブック (第 2 版)
(2018 年 カラーユニバーサルデザイン推奨配色セット制作委員会)

QRコードの活用例 (無料サイトで簡単に作成できます)

■ ウェブサイトを表示



スマホ画面の
イメージ



■ テキストを表示



スマホ画面の
イメージ

